

## エクспанデッド・シネマ再考

Japanese Expanded Cinema Revisited

2017年8月15日（火）～10月15日（日）



シュウゾウ・アヅチ・ガリバー 《シネマティック・イリュミネーション》

1968-69年 インターメディア 東京都写真美術館蔵

### 展覧会概要

当館の映像コレクションを軸に、映像メディアの歴史を振り返りながら、未来の映像の可能性を探る「エクспанデッド・シネマ再考」展を開催します。

「エクспанデッド・シネマ（拡張映画）」は、従来の映画館等でのスクリーンへの投影とは異なった方法で上映される映画です。それは、今日では既に定着しているマルチプロジェクションやループ上映、ライブ・パフォーマンスの先駆けとなるもので、同時代のインターメディアやアート＆テクノロジーの状況と呼応しながら、映像がもつ多様な可能性を再発見していく試みでした。この上映形式は、1960年代半ば頃から欧米を中心に、美術家や実験映像作家によって展開されていきます。本展では、「エクспанデッド・シネマ」の誕生から様々な実験を繰り広げた日本の作品に着目し、その独自性と先見性を検証していきます。

## 出品作家／出品作品

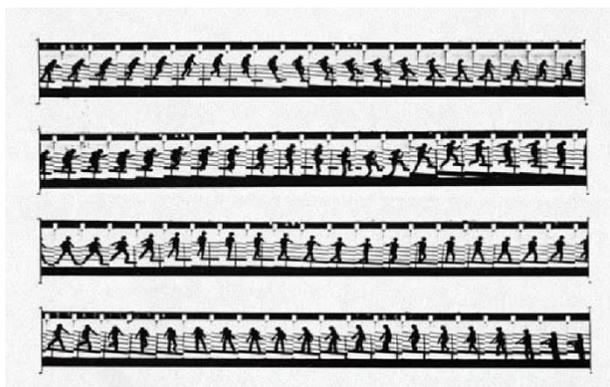
飯村隆彦、シュウゾウ・アツチ・ガリバー、おおえまさのり、松本俊夫、城之内元晴、真鍋博、佐々木美智子 ほか、日本のエクспанデッド・シネマの歴史的資料を多数紹介します。



松本俊夫 《つぶれかかった右目のために》

1968年 マルチプロジェクション（16ミリフィルムより変換） 東京都写真美術館蔵

日本のエクспанデッド・シネマの代表作。ヒッピー、学生運動など、当時のさまざまな風俗や事件が、三台のプロジェクターから投影され、ドキュメンタリーとアヴァンギャルドを横断するマルチプロジェクション作品。



シュウゾウ・アツチ・ガリバー 《シネマティック・イリュミネーション》

1968-69年 インターメディア 東京都写真美術館蔵

1969年に銀座のディスコテック「キラー・ジョーズ」におけるインターメディア・アート・フェスティバルで上映された《シネマティック・イリュミネーション》。18台のスライド・プロジェクターによる360度の映写による伝説的な体験を、約50年振りに本展で忠実に再現する。



飯村隆彦 《リリパット王国舞踏会》

1964/66年 ダブル・プロジェクション（16ミリフィルム） 個人蔵

日本初のマルチプロジェクションによる構造的な実験映像作品。1960年代に「ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズ」に参加し、ハプニングやパフォーマンスによって既成の概念を揺るがした伝説的な前衛作家、風倉匠の日常的動作が、いくつかの断片によって構成されている。

## 日本のエクспанデッド・シネマ

エクспанデッド・シネマは、その形式や内容からも、いま国際的に大変関心が高まっている映像表現です。とりわけ「エクспанデッド・シネマ」が登場する1960年代の日本は、政治や社会が大きく変化していく時代でした。そのような中で、映像はドメスティックな場から社会的な大型イベントまで、さまざまな場所で、さまざまな手法で表現が試みられました。

本展では、日本作品の独自性と先見性に着目し、60年代の実験を現代の技術によって忠実に再現することにより、歴史的瞬間をよみがえらせる画期的な試みです。当時の資料や記録からも、時代を再検証していきます。また時代の変化のなかで、個人の日常やさまざまな境界を拡張していく実験にも注目していきます。

日大映研…1957年に設立された日本大学芸術学部映画研究会の略称。赤瀬川原平、飯村隆彦、オノ・ヨーコなど、戦後の多くの前衛芸術家たちが交流した。

草月アートセンター…草月会館において、1958年9月に映画監督の勅使河原宏によって設立された組織で、60年代における日本の前衛的な映像表現を紹介する中心的な場となった。

日本万国博覧会…60年代の前衛映像作家の活躍は、1970年に大阪で開催された日本万国博覧会へとつながり、多くの革新的な日本の映像表現が世界に紹介された。

さらに、海外作家の事例や「エクспанデッド・シネマ」が多く登場したことで知られているモントリオール万博（1967）などの関連資料とあわせ、歴史的に「エクспанデッド・シネマ」を再考します。



- 左 「インターメディアアートフェスティバル」1969年 ポスター 個人蔵
- 中央上 「EXPOSE 1968——なにかいってくれ いま さがす」1968年 ポスター 慶応義塾大学アート・センター蔵(参考図版)
- 中央下 「SOGETSU MUSIC INN 5/モダン・ジャズの多角的応用」1960年 ちらし 個人蔵
- 右上 「9 evenings theater and engineering」1966年 冊子 個人蔵
- 右下 Gene Youngblood, *Expanded Cinema*, E.P. Dutton 1970年 書籍 個人蔵

## 展覧会図録

『エクспанデッド・シネマ再考』

編集・発行 東京都写真美術館 編集協力 grambooks

テキスト執筆 平沢剛（明治学院大学研究員、映画研究者）、ジュリアン・ロス（ロッテルダム国際映画祭プログラマー、映画研究者）、田坂博子（東京都写真美術館学芸員）

## 関連イベント

### 出品作家によるアーティストトーク

日 時／アーティスト

8月19日（土）14:00-15:30 飯村隆彦

8月20日（日）14:00-15:30 おおえまさのり

8月26日（土）14:00-15:30 シュウゾウ・アヅチ・ガリバー

定員 各回50名 会場 東京都写真美術館2階ロビー

当日10時より1階総合受付にて整理券を配布します。

### 8ミリ自家現像ワークショップ

8ミリフィルム（モノクロ）での撮影から現像、上映までを全2日間で行う制作ワークショップです。

日 時 9月23日（土・祝）、24日（日） 各日 10:15-19:00

定員 12名（事前申込制、応募者多数の場合は抽選）

会場 1階スタジオ 参加費 5,000円

講師 石川亮（東京国立近代美術館フィルムセンター技術員、映像作家）、  
郷田真理子（フィルム技術者、株式会社 IMAGICA ウエスト）

### 担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・4金曜日 16:00より、担当学芸員による展示解説をおこないます。展覧会チケット（当日印）をご持参の上、2階展示室入口にお集まりください。

第10回恵比寿映像祭プレイベント

### 第10回恵比寿映像祭 国際シンポジウム

#### インヴィジブル、インターメディア、エクспанデッドー映像の可能性（仮称）

来年2月の第10回恵比寿映像祭の開催を記念するプレイベントとして、恵比寿映像祭を読み解くための、国際シンポジウムを開催します。

日 時 2017年10月9日（月・祝）14:00～17:00（開場 13:45）※英日同時通訳付

主催 東京都／東京都写真美術館・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）／  
日本経済新聞社

会場 東京都写真美術館 1階ホール 入場料 無料／要入場整理券

定員 190名（整理番号順入場／自由席）

出演 ブランデン・W. ジョセフ（コロンビア大学教授、美術研究者）、平沢剛（明治学院大学研究員、映画研究者）、ジュリアン・ロス（ロッテルダム国際映画祭プログラマー、映画研究者）

※当日10時より1階ホール受付で入場整理券を配布します。

## 開催概要

主催 東京都 東京都写真美術館

協賛 凸版印刷株式会社

会場 東京都写真美術館地下1階展示室

東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

Tel 03-3280-0099 URL <http://topmuseum.jp>

開館時間 10:00～18:00 (木・金は 20:00 まで) 入館は閉館 30 分前まで

休館日 毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は開館、翌平日が休館)

観覧料 一般600 (480) 円、学生500 (400) 円、中高生・65歳以上400 (320) 円

※ ( ) は20名以上の団体料金 ※小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料 ※ただし、8月18日(金)、25日(金)の18:00-21:00はサマーナイトミュージアム割引 (一般 480円/学生・中高生 無料/65歳以上 320円 ※各種割引の併用はできません)

## このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版 (参考図版を除く) をデータにてご用意しております。

掲載をご希望の際は、下記広報担当までご連絡ください。

図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。  
図版のトリミングはできません。

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館

1-13-3 Mita, Meguro-ku, 153-0062, Tokyo, Japan

Tel 03-3280-0034 Fax 03-3280-0033 <http://topmuseum.jp>

展覧会担当 田坂博子 [h.tasaka@topmuseum.jp](mailto:h.tasaka@topmuseum.jp)

遠藤みゆき [m.endo@topmuseum.jp](mailto:m.endo@topmuseum.jp)

広報担当 久代明子 平澤綾乃 前原貴子 [press-info@topmuseum.jp](mailto:press-info@topmuseum.jp)